

SAN JOSE DEL CABO における皆既日食観測

森 友 和

コスモトラベルの主催する「メキシコ皆既日食観測ツアー」に応募した46名は、7月8日と9日に、観測地及び宿泊地の SAN JOSE DEL CABO にて日食観測をするため成田から出国した。

■成田から SAN JOSE DEL CABO へ

成田からロスアンゼルスへの飛行は、全日空のジャンボ機で太平洋上の飛行を楽しんだ。

ラバス行きのカリフォルニア・エアーの搭乗一時間半前に、添乗員の呼びかけで集合し、搭乗券を受け取る事になった時に一悶着が起こった。航空券とパスポートの名前が違う人が3名あり、3枚は再度この場で購入し直せと係官が言う。飛行機出発間近まで交渉をし続け、やっと全員の航空券を手にいれ、飛行機に乗り込む事が出来た。

ロスを飛び立った飛行機は、ロレットで入国審査のみを行い、ラバスに着いた。ラバス空港では、税関審査もなく、そのまま現地旅行会社ワゴンリーが用意したエアコン付きのバスとランドクルーザーに乗って日の暮れた1号線を南に向かった。途中サンルイスとサンルーカスの郊外で休憩を取り、夜中の2時すぎに無事POSADA REAL HOTEL に到着した。

■観測体制について現地との交渉とリハーサル

翌日9日、コスモトラベルの添乗員他と共に、市役所とメキシコ観光開発局の LOS CABOS 支所をまわり、観測地及び現地の情勢について調査を行った。市役所では、ROCHIN 助役及び CASTRO 市長から、私たち観測隊の所に警察官1名、海兵隊を1名、市役所の職員を1名配置し観測体制に協力するという。警察及び市の職員は、何か事故があった場合電話回線で市と連絡を取りながら対応をする。海軍は沖合いの軍艦を中継点にして無線で通信網を確保しているようだ。病院も当日は緊急体制を取っているのも、何かあっても大丈夫だとの事だった。私たちからは、街路灯の消灯について要請をしたが、この事についても、「市の管理する街路灯と開発局が受け持つ街路灯は全て日食期間中は点灯しない」という約束をしてくれた。

観測地は、ホテルから近い丘を、難問を解決しつつ観光開発局の協力で確保する事が出来た。

7月10日は一日中皆既日食の計画に合わせてリハーサルを全員で行った。時報やコマンドも明日の皆既日食の時刻通りに行い、望遠鏡・魚眼カメラ等支障なく使えるかテストをしていると、市の職員が飛んで来て、パトカーの手配や見物人の監視など日食観測に対する心配りには関心をした。

■7月11日は快晴、観測大成功

日食当日の11日の朝、レストランで朝食をとっている人たちの顔色が悪い。それもそのはず、太陽が雲に隠れて見えないのだ。しかし、観測地へ向かうバスに乗る8時頃になると青空が広がり、全員の足どりは軽くなった。

観測地に着くと、すでにタクシーなどで来て準備をしている隊員や私たち以外の外国の観測者たち、そして現地の人々で丘の上はにぎやかになっていた。私たちの観測を側面支援するた

めに、海兵隊5人、警察官5人そして市の職員4人が配置されていた。ROCHIN 助役から「私たちの要求を言ってくれば、海兵隊に命じて邪魔な人たちをこの場所から追い出す」と言われたが、観測準備に入っている仲間と相談して、邪魔な位置にいる人だけ多少位置を移動してもらい、「皆既直前になったら日本人の指示に従ってほしい」とだけ要請をした。

第1接触が始まる10時24分にはすでに空は快晴で、空の一部に雲があるだけだった。

第二接触11時50分16秒の前に薄い雲が太陽の前を通ったが観測にはほとんど影響されなかった。皆既約3分前から3ないし5センチ幅のシャドウバンドが現れた。本影が北西の遠くの山を徐々に暗くしながら近づいてきた。周りは暗くなってきたがカメラ操作など普通に行え、皆既日食になってもそれほど暗くはならなかった。

黒い太陽の周りにはプロミネンスが輝き、コロナがその周りに大きく広がりを見せた。全員から大きな歓声が起こった。外部コロナは非常に大きく、カメラの視野からはみ出した程だった。コロナの色は多少黄色がかっていたように見えたが、写真を現像したのを見ると普段のコロナの色であり、プロミネンスの強い赤が目に影響を与えたのかもしれない。

第三接触11時56分32秒の前にダイヤモンドリングが輝いてすぐ細い太陽が月の裏から現れ、皆既日食は終わりを告げた。この時数人がシャドウバンドが現れたのを観測している。

皆既が終わるとビールが配られ、三日月形の太陽に向かって乾杯をし、記念写真の撮影を全員で行った。ほとんどの人は第4接触前にホテルに帰り、最後まで残ったのは数人だけだった。

13時21分34秒に第4接触となり、太陽は完全に復円し、日食は終わった。

■ロスカボスの観光

日食が終わってホテルに戻ってから、すぐに市内観光と鍾乳洞観光にバスで出発した。鍾乳洞に向かう途中で、水無し川の両側に広大に広がるサボテンの密林を見、コウモリの多量のフンでフワフワになっている鍾乳洞内の地面を歩き、帰路では北回帰線の位置を示す直径2メートルの白いコンクリートのボールを背に記念撮影をしたり、ロスカボスの景色を堪能した。

翌日はサンルーカス市内観光と半島先端の海岸ヘモーターボートで行き、海水浴を楽しんだ。

■市長及び日食に協力した人たちとの交歓会

12日の夜は、私たちの日食観測に協力していただいた市の関係者を呼んでディナーパーティーを行った。市長夫妻、助役夫妻、社会福祉課長（政府の日食公認グッズは社会福祉協議会が販売し、その利益は社会福祉に当てる）、政府観光開発局のロスカボス所長夫妻が参加し、市長から歓迎の挨拶をいただいた。市長の挨拶のあと、当地の学校に望遠鏡を贈呈する申し出をしたところ大変喜んでもらい、後日市長宅で朝食会に全員招かれる事となった。

■SAN JOSE DEL CABO から成田へ

帰路は夜中の3時にホテルをバスで出発し、夜の国道を星空を見ながら走り、夜明けにラバスに到着した。帰りのコースは実に順調で、旅行中に一人も大した怪我や病気にならず、機材の紛失や盗難もなく無事全員成田に降り立った。